

倉吉市民シンポジウム「倉吉市立小学校適正配置の推進」についての概要

倉吉市教育委員会

関金小学校長の報告を聞いた後、「倉吉市立小学校適正配置の推進」について、PTA代表、各種団体代表等が、それぞれの立場から意見交換し、課題やその解決方法など考えを深めていくために、倉吉市民シンポジウムを開催しました。

今後の具体的な取り組みの中で、課題となる「適正規模について」「地域の衰退化について」の大きく2つのことに絞って、意見が繰り広げられました。



1 日 時 平成28年8月9日（火）午後7時00分～8時35分

2 場 所 倉吉未来中心 小ホール

3 参加者 市民 73人

コーディネーター 伊藤 哲雄 （元倉吉市教育委員会教育委員長）

シンポジスト 中田 朱美 （鳥取県中部教育局長）

山下 千之 （倉吉市学校教育審議会委員）

美田 龍一 （保護者代表）

高橋 義博 （倉吉市子ども会育成連絡協議会代表）

笠原 治 （旧山守小学校保護者代表）

4 概 要

(1) 開会あいさつ 福井 伸一郎 倉吉市教育委員会教育長

(2) 説明 丸岡 恭樹 倉吉市教育委員会学校統合準備室長
・倉吉市立小学校適正配置推進計画について

(3) 報告 「新関金小学校 1学期のあゆみ」

報告者 藤山 正明 （関金小学校長）

（パワーポイントによる報告）

開校してからの子ども達の様子

- 『せきがねっ子の心がけ』として、「笑顔であいさつ」「よい姿勢」「はきものをそろえる」の3つを児童会を中心に取り組んでいる。その中であいさつや、はきものを揃えることなど積極的に行動している姿が見え、2学期以降も継続出来るようにしていきたい。
- 児童体育祭に向けての練習では、人数が増えたことにより切磋琢磨する場面

が多く見られ、一所懸命に練習に励んでいた姿が印象的だった。

- 運動会では、関金温泉小唄の踊りを復活したところ保護者のみならず、地域の方々が多く参加され賑やかになった。
- 関金子ども歌舞伎では、これまで旧山守小学校だけで取り組んでいたものが旧関金小学校の児童も参加するなど伝統文化が地域を越えて、関金全体に広りを見せた。

(4) シンポジウム概要

【コーディネーター】自己紹介を兼ねて適正配置についての意見をいただきたい。

【シンポジスト】保護者代表。灘手小学校PTA役員の肩書きを取って、今日は対象校区の一保護者として発言をさせていただきたい。

【シンポジスト】倉吉市学校教育審議会委員。適正配置については、子育ての主体である保護者としてもっと声を出し、意見を述べてほしいし、子育ても地域づくりも人任せにしないで、保護者のみなさんあなた方が主役である。

【シンポジスト】旧山守小学校PTA会長。適正配置に対しては、早期の解決は難しいと思うので、保護者や地域住民の感情や不安をどのように解決していくか、存続、統合両方の意見を慎重に繊細な対応でお願いしたい。

【シンポジスト】倉吉市子ども会育成連絡協議会副会長。推進計画には、基本的には賛成で、倉吉市の児童推移を考慮すると、小学校の適正配置、学校再編は必ず実施しなくてはいけないと思うし、財政面から考えても、統合により削減されることは良いことである。様々な議論、検討をされた結果を尊重していきながら計画を進めて行くことが大切だと考えている。

【シンポジスト】鳥取県中部教育局長。国、県の動向については、学校は、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合うなど、子ども同士が相互に関わり合う中で、一人一人の資質や能力を伸ばしていく場である。

国では「小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい」として学校規模の適正化や学校の適正配置を推進するよう求めてきた。また文科省は新たに「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を策定した。これは地域の実情に応じて、少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策を検討・実施してほしいということである。しかしこれは行政が一方的に進めるものでなく、児童生徒の保護者や地域住民の意見を交換し協力を得るなど、地域とともにある学校づくりの視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが必要だと思う。

【コーディネーター】5月から開催した適正配置推進計画についての説明会で、どの地域でも意見のあった内容に絞って意見を聞きたい。まず「少なくとも1クラス20人以上が適正なのか」という点についていかがなものか。

【シンポジスト】学級の人数が少ないと、教師の目がよく届き、きめ細やかな対応ができるが、極端に少ないと多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。また人間関係も固定化しやすいというデメリットもある。琴浦町で学校統合を経験された先生から、「授業で多様な意見が出ることで学習に広がりがあった」「固定関係がリセットされ互いにいい刺激をもらい友達関係が広がった」など聞いたが、やはり一定規模の集団が確保されていることが子ども達にとっては教育効果が高いのではないかと思う。

【シンポジスト】義務教育の観点をもって見るのであれば、平等に学ぶ機会を与えるという目的を達成するのに、教室という箱の中に児童、生徒が何人いようが関係なく、学ぶ機会を与えなければならないということになる。適正な人数や児童側に教育論を求めるばかりでなく、教員の指導や人材確保の面を議論した上での「適正な学校運営とは何か」を話し合うべきだと考える。

【シンポジスト】個人の意見として少なくとも1クラス20人以上の学級にこだわる必要はないと思う。児童個人を見た時にどうなのかというところが問題だと思う。すべての学校を20人以上の学級として統一して揃えてしまうと、その環境に馴染めない児童は行き場をなくしてしまうのではないかと思う。

【コーディネーター】次に、「地域の衰退化」ということも、各地域から意見があったようだが、この点についてはどうか。

【シンポジスト】統合後の実感として衰退をまだ感じるに至っていないが、今まで地区の健康診断は旧山守小学校で行われていたが、今年度はバス送迎にて場所を変更して行われるなど変化はある。また山守地区の児童を対象に行っていた子ども歌舞伎の出演者を、旧関金小児童も参加して、新小学校の中での事業として練習風景を見た時に地域が広がって良かったと感じた。

【シンポジスト】地域・倉吉市の大きな問題として少子高齢化と人口減少ということが、現実としてどのような影響を及ぼすのか、これが切実な問題であり、子育てだけに限らず様々なことに影響してくることに危機感を感じている。全ての年代の人の生活に影を落としてくること、今までの考え方では解決しきれない状況に陥ってしまうことを私たち大人が自覚することが必要だと思う。

【シンポジスト】今の地区の現状を考えた上で、地域の衰退と学校をつなげて考えるのは少し違うと感じている。なぜなら、地域はとっくの昔に衰退しているからで、この適正配置の問題に際し、衰退の原因を垣間見た気がした。学校がなくなると地域が廃れるという人も、子どもの友人が少なくて可哀想だから再編に賛成だ、という人も根っこは同じだと思う。どこか他人任せで、自分からは何も動かない。地域も学校も本当に大切だと思う気持ちがあれば、もっと本気で取り組み、学ぶ場へ出ていき行動に移すべきなのに、それをしない。賑やかしだけの地域再生はない。再生に向けてやる

ことは、行動するしかないと思う。

【シンポジスト】速やかに小学校適正配置の協議会を立ち上げて、学校統合に向けての課題などを協議する必要がある。協議していく中で、様々な課題も出てくると思う。その方策などを検討していくことになるが、そこで解決できなければ準備委員会に移行できないこともあると思うが、あくまでも協議会では、住民としっかりと課題を協議することが前提の会であることではないかと思う。

◆会場からの意見

【市民】1クラス20人より少なくても教育には支障はないと思っている。また地域の衰退については、やはり小学校は地域における重要さは大きいので、地域から学校がなくなると自動的に地域は衰退してしまうと思う。小規模校だから直ちに大規模校にひっつけてしまうというやり方ではなく、多様な教育の仕方があると思うので、小規模校・大規模校それぞれ残せる工夫が必要だと思う。

【シンポジスト】適正配置に対する住民や保護者の持つ不安は大きなものがあるように感じるので、その不安を解消するためにもシンポジウムやいろいろな場で行われている説明会に参加し情報を得るなどして、この統合問題を一緒に考えてほしいし、行政の方も引き続き地域や保護者からの意見を聞いてほしい。

【シンポジスト】倉吉市の十年後、百年後の未来を本気で考えるのであれば、もっと大胆な都市計画の見直しが必要な時期に来ていると思う。ここに住みたいという要素はあると思うので、それらを活かしてこの倉吉の地にいながら世界を相手に勝負できる環境が、これからを生き抜く子どもたちに必要だと感じている。この町に育成力が備わるのか、それともこのまま人口減少していくのか、本当に必要な学校再編計画はそこから始めないといけないのではないかと思う。

【シンポジスト】町、地域、倉吉市全体で、将来どんな姿のまち、地域、倉吉市にしたいか考えないといけない。一人一人の力を子どもたちの未来のために、子どもたち自らも地域のために動き、お互い様で力を発揮できる努力を今からしていかないといけないと思う。学校ではなくても拠点となりうる場所はあるはずだ。むしろ学校という型にはまらないで自由な発想で地域力をパワーアップさせていくことが、今後の社会では重要になっていくのではないかと思う。

【シンポジスト】学校統合では、メリット、デメリットがあり、地域と学校とのつながりは長い歴史もあるが、倉吉市の全体のことを考えなければならない。課題を先送りしては、将来の倉吉市、子どもたちにとっては何もならないと考えている。将来を担う子どもたちを大人である私たちがしっかりと議論して、倉吉の子どもたちのことを考えていくことが必要であり、また地域がしっかりと子ども達を育てるというも考えてほしい。

【シンポジスト】学校の適正配置の目指すところは、「少子化に対応した活力ある学校づ

くり」ということ。学校統合、或いは小中一貫校、小規模校の存続するなど選択肢は複数ある。また、保護者や地域の方々の思いや考えも様々だと思う。選択肢は様々だが何よりも時代を担う子ども達にとってどうかということが大切になってくる。子ども達が楽しく充実した学校生活を送るということを子ども達を真ん中にして皆さんと議論して考えていくことが大切だと思う。

【コーディネーター】皆さんの意見をまとめる立場ではないが、少しだけ感想を話したい。今日のシンポジウムでは、特に「少なくとも1クラス20人以上が適性かどうか」「学校がなくなれば地域が衰退するか」この2点について絞らせて頂いた。まだまだたくさん課題があり、これ以上に大きな問題点もあるかと思うが、とにかく将来の子どもにとってどうするのが一番良いのか、それをいろいろな角度から議論することが必要だということでは、一致していると思う。

今まで地域を作り上げて来られたすばらしい方々がそれぞれの地域におられ、そしてこれからまた別の地域も作っていかうという若い方々、或いは保護者の方々もおられるが、その方々が自分の意見を出し合って、心から自分の気持ちを話し合える場を各地域で作って、協議会を立ち上げてもらってそこで何が問題なのか出してもらうなければ進まない。そういう協議会をまず立ち上げてそこに参加してもらい、そしてうまくいけば統合するための学校統合準備委員会が出来て、具体的なものになっていくと思う。あくまでも地域の方々と教育委員会とが話し合いをしながら、進めてほしいと思う。

そして、もう答申が出されてから4年、その前の提言からですと8年経つが、そろそろここでまとめないといけないと思う。倉吉市教育委員会は今日の話や今後のことなど、そういう事柄を全部ひっくるめて、今出している計画を推進するべく進めてほしい。